



OKU NO HOSOMICHI -Matsuo Basho-

330 years ago in May (March in the old calendar), Matsuo Basho left Edo to Michinoku with his apprentice, Sora Kawai. "Oku no Hosomichi (The Narrow Road to the Deep North)" is a travelogue which was written on his journey.

The party passed through Sakai-no-Myojin, stayed overnight at Hatajuku, and visited Mt. Seki and Naka-machi.

All over the city there are stones with his haiku poems about Shirakawa.

今からちょうど330年前の5月（旧暦では3月）、松尾芭蕉は弟子の河合曾良とともに、あこがれのみちのくへ向けて江戸を旅出しました。その旅の紀行文が『おくのほそ道』です。

一行は、境の明神を越え、旗宿・関山・白河城下の中町などを訪れました。芭蕉が残した白河に関する句は、句碑として市内各所に建てられ、その足取りを伝えています。



私が通ったアメリカの学校では、夏休みに宿題がない (Sounds pretty good, is it?) ので、小さい頃から家族で旅行に行く機会が多かったです。

一番長い旅行は、スペイン留学中に友人と8か月間、東ヨーロッパを巡ったことです。たくさんの人と出会えたことが、最高の思い出です。

他の人々の生活を学んだり、違った考え方に感心したり、自分の知らなかった部分に気づけたりするのが、旅の魅力だと思います。

ゴールデンウィークは、キャンプや旅行に行ってきます！

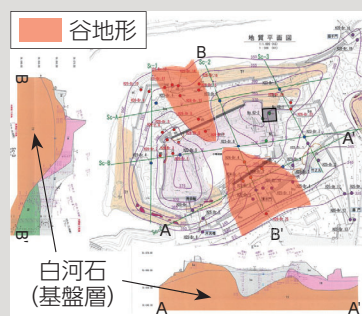


ウィルソン・ヨーマ先生
(アメリカ合衆国)

英語でひとこと！

The world is your oyster.

(世界はあなたの思うまま／求めれば
何でも得られるし、どこへでも自由に行ける)



▲調査で分かった本丸の旧地形

小峰城の石垣は、江戸時代から複数回にわたり修復が繰り返されたことが分かっています。今回の石垣崩落の直接的な原因は地震ですが、地点ごとに崩落の状況に違いが見られ、地震以外の原因があったことも想定されました。

そのため、復旧工事に先立ち、崩落原因を探るため、小峰城の構築された丘陵の旧来の地形や地盤の強度確認を目的に、地質調査を行いました。

調査の結果、この丘陵は基盤が凝灰岩（白河石）の層で、その上に粘土層などが堆積していることや、現在平坦に見える場所も、かつては谷地形であったことなどが明らかになりました。

「左図」。こうした、水の集まりやすい谷地形や盛土の性質の違いなどが、崩落の要因の一つだと考えられました。

さらに、本丸南面の石垣背面

小峰城の石垣

文化財課 ☎ 2310

石垣復旧メモ

地質調査で谷地形が確認された位置は、石垣の崩落した箇所と重なることが分かりました。



▲本丸南面石垣の裏側（南から）

盛土の発掘調査では、16世紀（1500年代）の前半以降に大規模な埋め立てが行われ、本丸が造成されたことも分かりました「左写真」。

この時期は、白河結城氏の本拠が白川城から小峰城へ移り、また、結城氏が改易され、会津領へ編入されるなど、小峰城を舞台に大きく歴史が動いた時期でもありました。

地質調査や発掘調査を行うことで、普段では知ることのできない、石垣の裏側に隠れた小峰城の成り立ちや歴史を確認できました。

① 災害復旧で分かったこと
② 石垣の裏側(1)本丸北面・南面